



◇ハートフルアート展の「平和な未来」の絵のカラーの表紙がとてもかわ

いかったです。こどもの絵はすてきです。誌上ギヤラリーもカラフルで楽しい頁ですね。運営委員会だよりの設楽さんの言葉にとても共感できるものが多くありました。「どんなに良心的な人でも、他人の本当の悲しみを共有することはできない」というのは理解する側（しようとする側）の言葉だと思いますが、悲しみをかかえる人も又、他人にはわかってもらえないと感じられています。

背骨の圧迫骨折になってから2ヶ月ほど過ぎています。服薬とコルセットで調子はだいぶよくなりました。3月の検査しだいですが、あともう少しだと思います。

高崎市 二〇〇 孝絵

◇「育ちと学び」は内容ゆたか。皆さまに感謝！平和、ジエンダー、障害児の視点がよい。聾学校の生徒の作品も、授業参観も！

内藤さんが共同研究者だといううれしい二

ユースも。設楽さんの近現代史ゼミも。「図書館に自衛隊がやってくる」という須田さんのとりくみも。

私はフォーラムの長年のサポーターです。瀧口典子さんが代表なのでですね。一度、私も憲法と平和、幣原喜重郎と9条、9条地球憲章の会のことなどについてお話ししたいものです。歌も。

小川晶さんの勝利、よかったですね。
調布市 堀尾 輝久

◇こちら身ひとつの自立が精いっぱい。つい老いの愚痴がこぼれがちですが、老いることさえ許されぬ人々が日々生命の危機にさらされ続けていることを思えば、何をか言はむやですね。

ほんとうに言葉の力が失われてしまいましたねえ。人間の言葉、それが「信」なのに。いつからこんなことになってしまったのか、「国語」という教科でいったい何がなされてきたのか、家庭の中で社会の中で、言葉はどんな風に扱われてきたのか。

中学生のとき、「赤銅色」を「せきどういろ」と読んだ教師に辞書を見せたら、「それは辞書がまちがっている」と言われました。「嘘は教えたくない」と、それが教師をめざした動機でしたが「真実」を教えられるなど

と思ったのは浅はかでした。それはみな学ぶ人自らの力。今頃気づいても申し訳なく思えばかりです。

高崎市 内藤 雅美

◇いつも充実した紙面に、そして編集の皆様のご苦労に心から敬意を表しております。

No.57の「虹色のひろば」で執筆をされている多賀谷先生の文章を読ませていただき、20数年前に60歳で定年退職した我が身のことを振り返り、ああ、やっと定年をむかえたという安堵感を思い出しました。今は65歳まで仕事というところで、大変だなと感じますが、60代はまだまだ若いですから、頑張ってください。

コロナ前、瀧口先生に勧められて、スタジイ楽書会にお世話になっていましたが、昨年、事情があつて約一年休んでしまいました。その間、N先生から度々の温かい励ましのメールを頂き、何とか重い腰を上げて戻ってきました。そして、大した練習をしない内に、いきなり4月の作品展に出すことになり、厚かましい限りですが、須田先生のご指導よろしきを得て、仕上げることができました。今後何か書を書いていければと願っております。

前橋市 品川 恭子